

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

### 負債の動態に関する比較民族誌的研究

2021 年度第 1 回研究会（通算第 4 回目）

日時：2021 年 5 月 16 日（日）13:00–17:00

場所：Zoom によるオンライン研究会

使用言語：日本語

共催：AA 研共同利用・共同研究課題「負債の動態に関する比較民族誌的研究」,

科研費（基盤 B）「負債の動態をめぐる比較民族誌的研究：アジア・アフリカ・

オセアニア農村社会を中心に」（研究代表者：佐久間寛（明治大学） 課題番号：

19H01388）

13:00-14:30 大竹碧（京都大学大学院）

「補償金の支払いと使用が生み出すもの：クワジェリン環礁における米軍

基地建設の事例から」

14:45-16:15 深田淳太郎（三重大学）

「貝貨の死蔵は「生の負債」の返済か？：パプアニューギニア，トーライ社

会から原初的負債論を考える」

16:20-17:00 全員

総合討論&打ち合わせ

概要

2021年度第1回研究会を上記の日時およびスケジュールのもと実施した。緊急事態宣言下の状況に鑑み Zoom によるオンライン方式を採用した。23名が参加した。本研究会では、オセアニア地域を対象とする研究者2名が、「補償」と「貨幣」という異なる事象をめぐり研究発表を行った。司会は大竹報告については河野が、深田報告については佐久間が務めた。各報告の概要は下記の通りである。

(佐久間)

「補償金の支払いと使用が生み出すもの：クワジェリン環礁における米軍基地建設の事例から」

大竹碧（京都大学大学院）

本発表では、米軍基地が建設されたマーシャル諸島共和国クワジェリン環礁において、基地建設に伴う金銭的補償が生み出す状況を明らかにした。

同環礁では第二次世界大戦後、基地が建設され、住民が同環礁内の小島イバイ島に強制移住させられた。現在は、他地域からの自発的移住者も、同島で強制移住者と共住する。

米国政府は、強制移住者に金銭的補償を支払う。発表ではまず、金銭的補償が、イバイ島住民によって多様に意味付けられる点を明らかにした。そして、金銭的補償の使用によって、強制移住者と自発的移住者の間に差異が生成されつつも、そうした差異が頻繁に無化されることを示し、補償の流入が人々の関係を固定化するには至らないと指摘した。最後に、『負債論』第6章でグレーバーが行った原始貨幣の議論を参照し、補償の過程を検討する上で、支払う側／支払われる側の二者だけではなく、それを傍観する第三者の存在も重要で

あることを示した。

(大竹)

「貝貨の死蔵は「生の負債」の返済か？：パプアニューギニア，トーライ社会から原初的負債論を考える」

深田淳太郎（三重大学）

人間は存在しているというまさにそのことにおいて社会や宇宙に本源的な負債を負っていると、その負債の支払いに貨幣の起源を見る「原初的負債論」について、グレーバーによる批判、およびその批判に対する反批判まで含めて再検討を行なった。その中で、特に水平な人々間の関係をあらわすものとしての負債と、垂直的な社会的権威による力としての負債のちょうど間にある「対角的な負債」というアイデアに注目し、パプアニューギニア、トーライ社会における貝殻貨幣をめぐる人びとの実践を再検討した。貝殻貨幣のやり取りを通して作り出される水平的な生者のあいだの人間関係と、人間が一生をかけて貝貨を貯めることを通してあらわされる社会的な価値には対立的な関係がある中で、その両者をつなぐ貝貨の「死蔵」というモーメントが重要な意味を持つ可能性を指摘

した。

(深田)